

科目	動物薬理学		
担当講師 仁木 隆博 実務経験有 東海大学名誉教授、農学博士大学教授として 40 年勤務			
開講年次	授業形態	選択/必修	授業時間
動物看護学科 2 年次前後期	講義	必修	60
授業目標 薬の作用機序とその有害作用ならびに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性について学び、薬剤を正しく取り揃えられることを目標とする。さらに、薬理作用と薬物代謝の仕組みおよび薬の有害作用機序や中毒を理解し、獣医療現場で使用される薬剤の特性について習得する。			
授業概要 薬理の作用機序と神経系消化器系呼吸器系循環器系に作用する薬剤動態について学ぶ。			
成績評価の方法 評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が 3 分の 2 以上であることが必要。試験は 80～100 点が A 評価、70～79 が B 評価、60～69 までを C 評価とし、60 点未満は再試とする。再試においては 80 点以上を合格とし評価は C となる。			
教材 動物看護の教科書 6 巻 (P2～59 緑書房)、動物看護コアテキスト 3 巻 (P150～221 ファームプレス) 動物看護の教科書 4 巻 (緑書房)、講師資料			
授業計画 毎週水曜日 2 限目 10:50～12:20			
回	テーマ	授業内容	
1	薬理治療の概念と目的/ 医薬品の分類と法規	薬理学についての概念および薬物の剤形など薬理学を学ぶ上で必要な基礎知識を学習する。	
2	新薬の開発課程	新薬の開発のための様々な試験について学習する。	
3	薬理作用とその発現機構	体内での薬理作用およびその効果発現までのプロセスの違いによる薬の種類について学習する。	
4	薬の作用点と受容体 / 薬物の化学的性質、剤形と投与方法	薬が特異的に結合する受容体とは何か? や薬の形状の種類およびその投与方法について学習する。	
5	生体内での薬物の動態	体内における薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)のプロセスについて学習する。	
6	薬効に影響を与える因子 / 有害作用の分類と機序、動物種差	薬の効果を左右する要因や薬の有害作用の種類およびその機序について学習する。	
7	神経系に作用する薬物 ～麻酔薬	獣医療で使用される神経系薬物に関して、全身麻酔薬および局所麻酔薬について学習する。	
8	神経系に作用する薬物 ～鎮痛薬	獣医療で使用される神経系薬物に関して、鎮痛薬について学習する。	
9	神経系に作用する薬物 ～運動神経系に作用する薬	獣医療で使用される神経系薬物に関して、筋弛緩薬について学習する。	
10	神経系に作用する薬物 ～鎮静薬と抗けいれん薬など	獣医療で使用される神経系薬物に関して、鎮静薬および抗けいれん薬などについて学習する。	
11	呼吸器系に作用する薬物	獣医療で使用される呼吸器系薬物に関して、呼吸興奮薬、鎮咳薬、去痰薬などについて学習する。	
12	循環器・泌尿器に作用する薬物 ～血管拡張薬と心不全治療薬	獣医療で使用される循環器・泌尿器に作用する薬物に関して、血管拡張薬と心不全治療薬を学習する。	
13	循環器・泌尿器に作用する薬物 ～抗不整脈薬と利尿薬	獣医療で使用される循環器・泌尿器に作用する薬物に関して、抗不整脈薬と利尿薬について学習する。	
14	総まとめ	授業ノートを確認し、各自で重要な部分を認識しながら復習し、質疑応答を加えより深い習得に繋げる。	
15	消化器に作用する薬物 ～制吐薬と抗潰瘍薬	獣医療で使用される消化器に作用する薬物に関して、制吐薬と抗潰瘍薬について学習する。	

16	消化器に作用する薬物 ～消化管運動に作用する薬と止瀉薬	獣医療で使用される消化器に作用する薬物に関して、消化管運動に作用する薬や止瀉薬を学習する。
17	消化器に作用する薬物 ～瀉下薬と肝疾患、胆道疾患の治療薬	獣医療で使用される消化器に作用する薬物に関して、瀉下薬と肝疾患、胆道疾患治療薬を学習する。
18	オータコイド	獣医療で使用される薬物において、オータコイドについて学習する。
19	代謝・内分泌系の薬物 ～糖尿病治療薬	獣医療で使用される代謝・内分泌系の薬物に関して、糖尿病の治療薬について学習する。
20	代謝・内分泌系の薬物 ～甲状腺障害治療薬	獣医療で使用される代謝・内分泌系の薬物に関して、甲状腺障害の治療薬について学習する。
21	代謝・内分泌系の薬物 ～ステロイドホルモン	獣医療で使用される代謝・内分泌系の薬物に関して、ステロイドホルモンについて学習する。
22	血液・免疫系に作用する薬物 ～抗貧血薬、血液凝固抑制薬、止血薬	獣医療で使用される血液・免疫系に作用する薬物の抗貧血薬、血液凝固抑制薬、止血薬を学習する。
23	血液・免疫系に作用する薬物 ～抗炎症薬と免疫抑制薬	獣医療で使用される血液・免疫系に作用する薬物に関して、抗炎症薬と免疫抑制薬について学習する。
24	化学療法薬 ～消毒薬と殺虫薬	動物および獣医療の現場において使用される消毒薬と殺虫剤について学習する。
25	化学療法薬 ～抗菌薬と抗真菌薬	獣医療で使用される各種薬剤に関して、抗菌薬と抗真菌薬について学習する。
26	化学療法薬 ～駆虫薬、抗原虫薬および抗腫瘍薬	獣医療で使用される各種薬剤に関して、駆虫薬、抗原虫薬および抗腫瘍薬について学習する。
27	薬用量の計算	投薬量の計算について演習し、薬物投与に関する略語についても学習する。
28	後期総まとめ	授業ノートを確認し、各自で重要な部分を認識しながら復習し、質疑応答も加えてより深く習得する。